

英文学専攻

Graduate School of Humanities / Major in English Literature

募集人員：修士課程 20名／博士後期課程 2名 | 開講形態：**昼夜も開講** | キャンパス：市ヶ谷
主な進路：学術・教育関連(教員等)、製造など

少人数教育による、 文学・言語科学の専門的訓練。

英米の文学、英語学、言語科学などの専門教育を行います。教育の目標は「英米文学・英語学・言語科学の研究者の養成」「言語関連の幅広い知見を生かせる中学・高校英語教員の養成と、科学的訓練による再教育」「幅広い学歴・職歴・年齢層の人への再学習機会の提供」です。そのため社会人入試も実施しています。

開講科目はすべて、少人数のゼミ方式の授業であり、学生のニーズに応じて柔軟かつ丁寧な指導に努めています。また、自由度の高いカリキュラムも大きな魅力です。専任教員と相談しながら、専攻内・研究科内・学内または提携大学院(2015年時点、11校)の豊富な科目の中から、自分独自のカリキュラムを編成することができます。

アドミッション・ポリシー

(学生の受け入れ方針)

入学が期待されているのは、文学に強い興味を持つ人、外国語教育や言語理論の研究のために科学的思考を養いたいと考える人です。一般入試に加え、本専攻の専任教員の推薦を得た人(学内者とは限らない)を推薦入試という形式で積極的に受け入れます。社会人は、基本的な思考力があれば年齢・性別・職歴を問わず勉強意欲のある方を社会人入試という形で積極的に受け入れています。また、基礎学力と勉強意欲、日本語と英語の能力がある外国人学生も積極的に受け入れています。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

文学系の教育課程では、少人数制の強みを生かしたきめ細かい指導を実施し、学生各自の興味やテーマについて、当該する専門分野の研究会や学会で、一定レベルの研究発表ができるよう、指導を行っています。

言語系の教育課程では、修士に入学した段階で、科学方法論・統計学・実験法などの方法論やスキルの入門講座を実施します。各自の研究テーマに必要なスキルについては、個々の授業科目において習得します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

修士の学位は、各自の選んだ研究テーマに必要な研究方法論を身に付け、そのテーマの成果や結果についての知識を十分に習得したと、修士論文によって判断された場合に授与します。博士の学位は、修士の授与基準に加えて、当該分野に新たな知見を加え、その研究分野に独自の貢献をしたと、博士論文によって判断された場合に授与します。

研究室紹介

言語能力の解明は、人間とは何かを解明すること 言語学は科学です

大沢教授 | 言語の統語構造の変化を理論的に解明する、史的統語論

言語の変化全般を念頭に置きながら、実際に扱うのは英語が中心となります。現代英語に存在する義務的な冠詞、多様な助動詞、仮主語として学習してきた虚辞のitやthereなどは古英語においては存在しませんでした。なぜこれらのシステムが英語に登場して来たのかを考えることは、言語の変化の方向性を考えるにあたって大変重要な手掛かりを与えてくれます。今の姿を当然のものとして受け入れるのではなく、科学者として言語のあり方を分析する視点を養えるように学んでほしいと考えて、またそのように指導しています。英語を教える場合にも絶対必要な知識を蓄えてほしいと考えています。

※本専攻には、このほかに英米文学や英語学・言語学などの分野を扱う、全部で11の研究室があります。



Voice



修士課程 在学中
古田 紲一

英語教員になる夢を実現し、 より深く英文法を教えていきたい

進学のかきかけ

大学院進学の前は総合商社に勤めていました。職業柄、英語を使用する機会は多々ありましたが、教員になる夢がどうしても諦めきれず、退職して、大学院進学を目指しました。現在は自分の研究と教職課程との両立でとても忙しいですが、卒業後は大学院で学んだ英文法の知識を生かし、生徒により深く英文法を教えることのできる英語教員を目指しています。

私の研究

現代英語の統語論現象を研究しています。中でも、再帰代名詞の束縛理論を修士論文のテーマにしています。大学受験までの英文法では英文の成り立ちや語順の理由などを学ぶことができません。なぜ再帰代名詞が主語になることができないのか、また、その先行詞はどの位置に置かれ、どのような影響を与えるかなどを既存の学説を批判的に学びながら、独自の仮説を追究しています。

〔研究テーマ〕
現代英語の統語論現象

■専任教員と担当科目(2016年度) ※年度により授業を持たない場合があります。 専 専門領域 研 研究テーマ 担 担当科目

石川 潔 教授 専 理論言語学(統語論・意味論)、心理言語学(音声知覚、文理解)
研 音素や音節の知覚、アスペクトの実時間処理など
担 言語学特殊研究(理論言語学・認知科学) A/B 言語科学方法論 A

川崎 貴子 教授 専 理論言語学(生成音韻論、第二言語習得理論)
研 音韻対比の音声的影響、第二言語学習者の音韻習得など
担 言語学演習(応用言語学) A/B

丹治 愛 教授 専 19世紀後半および20世紀前半のイギリス小説
研 イギリス世紀末文学、モダニズム文学
担 英米文学演習第三(British Fiction) A/B

日中 鎮朗 教授 専 ドイツ文学、比較文学
研 比較文化、F.カフカ、P.オースターの文学、文学理論、比較芸術
担 比較文学研究 A/B

山下 敦 教授 専 ドイツ語圏の文学と芸術
研 19・20世紀転換期におけるヨーロッパ文化の伝統と近代
担 ※今年度は、特定の科目を担当しません

ブライアン・ウィスナー 准教授 専 応用言語学(第二言語習得理論、英語教育学)
研 第二言語習得におけるメタ言語的知識の役割、言語テストの妥当性など
担 言語科学方法論 B 理論言語学・認知科学 A

大沢 ふよう 教授 専 英語学(統語論)
研 英語の統語構造の通時的変化を、統語理論を使って分析する
担 英語学演習(英語史・言語変化理論) A/B

椎名 美智 教授 専 英語学(文体論、語用論、社会言語学、歴史語用論)
研 近代英語期口語表現の歴史語用論的研究
担 英語学特殊研究第一(英文法・文体論・語用論) A/B

利根川 真紀 教授 専 アメリカ文学
研 アメリカ小説に反映された地域的・人種多様性とジェンダー
担 ※今年度は、特定の科目を担当しません

宮川 雅 教授 専 近代アメリカ文学
研 アメリカ文学史と宗教と神秘学、小説の語りと技法
担 英米文学演習第二(American Fiction) A/B Fiction演習 I A/B

結城 英雄 教授 専 英文学
研 アイルランド文学ルネサンス
担 英文学特殊研究第一(British Fiction) A/B 文学方法論 A/B

■設置科目(2016年度) ※開講科目は年度により異なります。()内は単位数

<修士課程>

- 英文学思潮研究第一(文学方法論) A/B(各2)
- 英文学思潮研究第二(文化研究) A/B(各2)
- 米文学思潮研究第一(American Drama) A/B(各2)
- 米文学思潮研究第二(American Poetry) A/B(各2)
- 英文学特殊研究第一(British Fiction) A/B(各2)
- 英文学特殊研究第二(British Drama) A/B(各2)
- 米文学特殊研究第一(文学史) A/B(各2)
- 米文学特殊研究第二(小説論) A/B(各2)
- 英米文学演習第一(Shakespeare) A/B(各2)
- 英米文学演習第二(American Fiction) A/B(各2)
- 英米文学演習第三(British Fiction) A/B(各2)
- 英米文学演習第四(British Poetry) A/B(各2)
- 英語学演習(英語史・言語変化理論) A/B(各2)
- 言語学演習(応用言語学) A/B(各2)
- 英語学特殊研究第一(英文法・文体論・語用論) A/B(各2)
- 英語学特殊研究第二(英語リーディングの科学) A/B(各2)
- 言語学特殊研究(理論言語学・認知科学) A/B(各2)

- 英語教育学研究 A/B(各2)
- 英語発音法 A/B(各2)
- 英語表現演習 A/B(各2)
- Fiction 演習 I A/B(各2)
- Poetry 演習 I A/B(各2)
- Drama 演習 I A/B(各2)
- 文学方法論 A/B(各2)
- 英語音声・応用研究 A/B(各2)
- 理論言語学・認知科学 A/B(各2)
- 応用言語学・理論研究 A/B(各2)
- 英語科教授法・教材研究 A/B(各2)
- 言語科学方法論 A/B(各2)
- 音声言語科学特論(2)
- 音声言語科学演習(2)
- 比較文学研究 A/B(各2)
- Academic English(Effective Writing) A・B(各2)
- Academic English(Oral Presentation) A・B(各2)
- <博士後期課程>
- 英文学特殊研究 I A・B/ II A・B
- 英文学特研演習 A/B
- 英文学特研講義 A/B
- 英文学特研演習 A/B
- 言語学特研演習 A/B

■修士生の研究テーマ

- Re-visioning the Ending of *The Secret Garden* : The Author's Dream-Fulfilled World
- Aspects of Madness in *Gulliver's Travels*
- Neil Simon's Formula : How He Transforms Real-Life Models into Fictional Characters
- A Relevance-Theoretic Approach to Impoliteness
- The Relationship Between Self-Regulated Vocabulary Learning Strategies and Vocabulary Size
- Willa Cather's *My Ántonia* : In Memory of Her Precious Past
- <見る>と<見られる> — Dickens文学の中のメスメリズム
- The Effects of Test Anxiety on Japanese University Students' Phonetic Knowledge and Performance
- 言語間における非対格性の普遍性 — 日英語の比較を通じて
- The Maxson Family's Struggles in *Fences*
- Nella Larsenの*Passing*におけるヒロインの正体 — パッシングによって失ったもの
- 第二言語における読みにくさと学習効果の関係性について
- The Context Effect on the Voicing Perception in Stops